

地域包括支援センターだより  
ええげえし

「ええげえし」＝「相返し」秩父地域の方言で「助け合う・支え合う」ことを意味します。

第23号（年4回発行）

H27. 12. 1発行

《編集発行》

皆野町地域包括支援センター

皆野町大字皆野1420-1

電話 62-1233

題字：書道クラブ「若竹」萩原 初恵 様

## 4月から大きく変わった介護保険制度

私たちの生活に身近な介護保険。これだけは抑えておきたいポイントを解説・・・第20号（H27.3発行）にて変更点を3つあげました。そこで、3回シリーズで変更点を細かく解説します。その最終回は・・・

**考え方** 高齢者が望む生活を尊重し、実現できる地域を目指す！

**変更点** 要支援認定者の介護予防サービス：

**全国一律⇒町基準**（平成28年4月から適用）

**ポイント①** デイサービスと訪問介護サービスが変更の対象となる。

デイケア（リハビリ）などその他のサービスは変わらない。

**ポイント②** 各サービスの選択肢が増える。

当町の取組み予定・・・身体介護と調理を除く、訪問介護サービスは手続きを簡素化、安価な自己負担で利用できる。報酬単価は、月単位⇒1日や1回の単位にできる。

シリーズ 地域の絆

## おなか元気教室 ～野巻長生クラブ～

10月4日（日）野巻椋神社の社務所において、管理栄養士の竹内智津子さん（ヤクルト販売）による『おなか元気教室』が開かれました。手づくりの人体模型を使い、消化器の働きを知り、栄養、免疫、排泄物の大切さを学んでいました。

野巻長生クラブは、会員が57名で、その3分の1が60代。今年には既に、神社・お寺の清掃、道路沿いのゴミ拾い、河川清掃、炊飯会、日帰りバス旅行等を行ったそうです。

閉じこもりを避け、地域のつながりを持つことは、健康上も大変良いことだと思います。



【写真左】勉強の様子：手づくりの模型でわかりやすかったです。

【写真右】腸元気体操の様子：音楽に合わせて腸子（調子）よく。

## 第3回ほんわか交流会

秋、真っ盛りの11月12日（木）に、社会福祉協議会主催による『ほんわか交流会』（今年で3回目）が開催されました。94名の高齢者が参加し、お昼を食べたり、出し物を見て楽しみました。赤十字奉仕団、近隣見守りボランティアの協力のもと、ねむの木朗読ボランティアによる劇・荒引定男さんショー・川田伊佐男さんと社協職員による皆野小唄の披露がありました。「久しぶりに出かけて来たよ。」と喜んでいる方もいました。お土産も手作りのもので、ボランティアさん中心とした、手作り感たっぷりの交流会になりました。



【写真上】『大きなかぶ』～ねむの木バージョンの熱演

## 地域包括支援センターはこんな仕事をしています

地域包括支援センターは、高齢者のみなさんが住み慣れたところで安心して自立した生活が続けられるようにお手伝いします。

介護保険サービスの利用方法、介護予防、認知症相談、保健・障害者・高齢者福祉、権利擁護、そのほか生活に関する不安や悩みなど  
いろいろな相談に応じます。気軽に電話・ご来庁ください。

## 高齢者のよろず相談所

皆野町地域包括支援センター（健康福祉課内）

電話 62-1233 内線 115・116

### 【編集後記】

【赤ちゃんがハイハイできるように。かわいいあんよでタッチできるように。言葉をしゃべれるように。人は生まれてから死ぬまで能力を獲得し続ける。それは人が発達していくプロセス。やがて、思春期・成人期・老年期へ段階が進んでも同じである。】と、おっしゃるのは、精神分析学者エリクソンさん（ドイツ生まれだよ。）。反論のある方⇒エリクソンさんまで・・・もう亡くなっていますが（残念）。とはいえ、老年期は家族や友人との別れ、心身機能の低下により喪失が多いのも否めませんね。

近年、高齢者に『自立』という概念が出現し、障害者やひとり親家庭などと並んでしきりに叫ばれるようになっていきます。自力で歩けなくても杖をついて歩けるように。右手が使えなくても左手が使えるように。長〜い人生で培った豊富な知恵を駆使して、強みや残った機能を活かすことが、それに繋がっていく気がします。『自立』に向けて努力している高齢者のみなさんに敬意を表します。

P.S. 今年もわずかになりましたが、みなさん良いお年をお迎えくださいね。

社会福祉士 新井 康弘